

町内各小学校で入学式 楽しい学校生活の幕開け

4月5日から9日にかけて町内各小学校で入学式が行われました。9日、織笠小学校(佐々木計校長、児童50人)では新たに4人が仲間入り。一人一人が名前を呼ばれると児童らは元気に返事をし、その姿に保護者らは目を細めていました。佐々木校長は「皆さんは今日から小学生になりました。学校生活では、あいさつのできる子ども、ありがとうと言える子どもになれるようがんばってください」とあいさつ。上級生からは歓迎の催しが行われ、新入生らは希望ある学校生活の始まりに胸を膨らませていました。なお、本年度の町内小学校の新入生は全体で101人(男60人、女41人)です。



多大な支援で憩いの場が完成 田の浜コミセン開所式開催

4月18日、田の浜地区において田の浜コミュニティセンターの開所式が行われました。この式典には、同施設の建設を支援したLVMHモエヘネシー・ルイヴィトン・ジャパンのエマニュエル・プラット社長、認定NPO法人「国境なき子どもたち」の寺田朗子会長のほか、地域住民らも参加。式では関係者らによるテープカットの後、佐藤町長が「完成した田の浜コミュニティセンターは地区住民の心のよりどころ、復興のよりどころ、憩いの場所になる。皆さんの多大な支援に感謝します」とあいさつし、支援者らに感謝状が贈呈されました。また、アトラクションとして船越小児童や田の浜地区住民らが、感謝の気持ちを込め歌や演舞などを披露しました。

関谷担い手仮設住民が感謝の奉仕 鯉幟掲揚式とゴミ拾い活動

関谷担い手仮設団地住民自治会(川端信作会長)による「鯉幟掲揚式とゴミ拾いパトロール」が4月14日、同仮設団地において行われました。これは、タレントのうつみ宮土理さんから寄贈されたこいのぼりを掲揚し支援への感謝の気持ちを表すとともに、ゴミ拾い活動で仮設団地の世代間親睦を図ろうと企画されたものです。掲揚式では、児童代表の佐藤稜真くんが「みんなでこいのぼりを掲揚し、ことしも支援していただいた方々に感謝の気持ちを表しましょう」とあいさつ。同団地と近隣仮設住宅の幼児・児童7人により青いこいのぼりが揚げられました。また、同式のあとは同団地から山田北小学校までの道のりをごみ拾い。リヤカーいっぱいなるほどゴミを拾い、参加者らは地域への感謝の気持ちを表しました。



関谷担い手仮設団地周辺から山田北小学校までの道のりをごみ拾い(上写真)／鯉幟掲揚式では、ことしも青いこいのぼりが大空へと元気に泳ぎ出しました





今月の題字

のぞみ
福士 希ちゃん
(大沢小3年)

町のわたい

道の駅で交通安全啓発活動 交通事故ゼロ願い呼び掛け

4月8日、町交通安全対策運動協議会（会長・佐藤信逸町長）では、道の駅やまだで交通安全街頭啓発活動を行いました。これは春の全国交通安全運動の一環として行われたもので、町交通指導隊や町交通安全母の会の会員など51人が参加。交通安全を呼び掛けるチラシやティッシュペーパーなどをドライバーに手渡し「スピードを控えて安全運動をお願いします」「後部座席の方もシートベルトをしましょう」などと一声掛けながら、交通事故撲滅を訴えました。



子どもまちづくりクラブが提言 こんな町になったらいいな

こんな夢のある山田町はどうですか——。本町の児童生徒25人でつくる「子どもまちづくりクラブ」のメンバー3人が「夢のまちづくり構想」の提言のために4月17日、町役場を訪れました。同クラブの柿本雄飛くん（山田高2年）、外館ひなたさん（豊間根中2年）、小野寺彩さん（織笠小5）が、海を活用した観光施設「水中トンネル」やホテルが入居する「避難タワー」、マツタケを食べながら楽しめる列車などを佐藤町長に提言。この夢あふれる構想を説明された町長は「次の世代の人々が“山田に住みたい” そう思ってもらえるように頑張ります」と子どもたちの熱意を受け止めていました。

安倍総理大臣が本町を視察 早期復興に向け住民と懇談

安倍晋三内閣総理大臣が4月6日、東日本大震災被災地の復旧・復興状況の確認と被災住民との懇談を行うため来町しました。多くの町民に迎えられた安倍総理大臣は、産業復興と雇用創出のために設立された造船会社ティ・エフ・シーやまだ工場を視察。同工場の概要説明を受け「地域のために頑張ってもらいたい」と、震災後に造船技術者として採用された社員らを激励しました。その後、町中央公民館で行われた懇談会では、5人の住民代表が参加。住民代表からは店舗移転時の支援や海水浴場の砂浜再生などの要望が出されるなど、早期復旧・復興に向けた切実な意見交換が行われました。

